

土田さんを
よろしく

 家族ぐるみのおつき合いをして、45年になります。真実を求めるまっすぐな姿勢は、小さい時から身につけており、信頼しています。子どもにもお年寄りにもわけへだてなくやさしい記代美さん。“美しい時代を記す”願いをこめて名づけられました。

演劇活動など、自分の選んだ道を、一生懸命生きてきました。市議会に新しい風を吹き込むことを、期待しています。土田さんがんばって。
土田さんをよろしくお願いいいたします。

つーこ先輩
がんばって!



土田さんとの出会いは、30年以上前。高校の硬式テニス部で、とてもお世話になりました。

1学年上の愛称“つーこ先輩”は、先輩後輩わけへだてなく声をかけ、女子部員が少ない中ムードメーカー的存在でした。つーこ先輩に元気と力をいただき何度もピンチを切り抜けたことが昨日の様に思い出されます。今回この様な形で再会が果たせて本当に嬉しいです。水戸市政にも元気と新風を吹き込まれることと心から期待し、精一杯応援します。

市政の舞台で 大活躍を!

水戸翔合同法律事務所長
弁護士 谷萩陽



 44年ぶりに再審で無罪となった布川事件。土田きよみさんは、劇団時代にこの事件を題材に演劇を創作して、支援を広げて下さいました。事件をよく取材され、平凡な生活を送っていた青年が犯人に仕立てあげられていくこわさや、真実を貫こうとする人の姿が胸を打つ作品でした。

土田きよみさんが、優れた調査力と、人の痛みに共感する優しさと正義感を生かして、市政という舞台の上で大活躍してくれることを心から期待します。

茨城県議会議員
大内久美子

茨城県議会議員

力をあわせてがんばります



市議会議員 市議会議員 県議会議員 党市平和・文化委員 市議会議員
江尻かな 中庭次男 大内久美子 土田きよみ 田中まさき

議会は市民のねがいを実現するかけ橋であり、市政のチェック役でなければなりません。

代表質問を行い、議会運営委員会や会派代表者会議で発言するには、どうしても3議席が必要です。江尻議員は県政をめざします。新人の土田さんを、ぜひ押し上げてください。



A portrait of Kiyomi Tsuchiya, a young woman with short dark hair, smiling. She is wearing a white shirt under a dark blazer. To her left, a red oval contains the text "日本共産党". To her right, large blue and yellow vertical text reads "土田きよみ". Below her name, smaller text identifies her as "水戸市平和・文化委員" (Member of the Hanyu City Peace and Culture Committee).

（）あいさつ
こんなには。水戸市議選に
初挑戦します。
私は、水戸で生まれ、水戸
で育ちました。
成人後、東京に出て、演劇
の道に入り、劇団などで演劇
活動をしてきました。
これから的人生を、ふるさ
と水戸で、市民の立場に立つ
たあたたかい政治をめざす力
になろうと決意しました。
何より平和といのちが守ら
れ、水戸らしい文化の息づく
街を、皆さんと力を合わせて
つくっていきたいと思いま
す。
力いっぱい働きますので、
皆様のご支援をどうぞよろし
くお願いします。

プロフィール

- プロフィール** ●1964年水戸市生まれ ●渡里小学校・水戸五中
水戸一高卒業、国立北海道教育大学函館分校中退
●俳優養成所を経て、劇団・アトロ<／海>で演劇活動。ピーター・パン役で全国を学校公演など●演劇集団を立ち上げ、企画制作、脚本、演出も手がけ、冤罪・布川事件を題材にした演劇を公演
●現在、日本共産党茨城県議団事務局員、党水戸市平和・文化委員
●母と2人暮らし●趣味 読書、映画、街歩き
【自宅】水戸市南堀町117-43 tel 029-253-3501

【自宅】水戸市堀町1147-43 tel 029-253-3591

水戸市日本共産党後援会事務所
水戸市上水戸2-6-21 TEL 029-221-7441



▲両親と

私は、1964年12月31日、東京オリンピックの年に生まれました。父は茨城大学で物理を教え、母はこばと保育園で働いていました。0歳からこばと保育園で、仲間にもまれながら育ちました。父は大学生協をつくるための活動など、母はPTAや高校増設運動などに熱心に取り組み、平和や人の権利を守るためにたたかうひとたちでした。沖縄返還デモや平和集会にいつも連れられていき、自然に両親がたたかう意味を知り、物心がついたころには、**平和と平等こそが一番大切!**という思いが体の中に深く強く根づいていました。それが私のはじまりです。



▲弟と

よく遊び、よく学び…大切なものをみつけた 《学校時代》

学校時代は、活発すぎて(?)先生をよく困らせました。なによりたくさんの友達と遊べることが楽しくて学校が大好きでした。家に帰ると、ランセルを玄関に放り投げて飛び出し、いつも生傷の絶えないワイルドな子供。それでも、小さな弟の面倒はちゃんとみていました。

中学ではソフトボール、高校では硬式テニス。部活に明け暮れる体育会系の青春で、チームワークや友情、努力と根性の大切さを身につけました。お互いを認め合い一生を通じてわかりあえる友人こそ宝物です。

学校は大切なものをみつける場所であってほしい。今、教育が危ういと感じます。点数競争や心の自由を管理するような教育であってはならないと思います。

高校2年の時、父がガンを発病。3年あまりの激しい闘病の中でも、希望とやさしさ、そしてユーモアを忘れない家族でした。父が亡くなった時、まだ大学生だった私と高校生の弟を育てるため、母は水戸翔合同法律事務所に再就職しました。どんなに厳しい現実にも正面から立ち向かう強さを見てくれた両親でした。

子どもに近い??いつも自然体?! 《成人後》

大人になっても、子供たちとすぐに仲良くなれるという特技(?)があります。中身が子供に近いからお互いに対等になれるんじゃないの??…と、よく笑われています。自分としては、**どんな人とも自然体で対等に付き合いたい!**という願いのあらわれだと思いたいところです。

劇団時代に、演じていた『ピーター・パン』は、永遠に大人にならない子供のお話。夢と冒険、勇気と希望のものがたりです。いつまでも子供の気持ちを忘れずに飛んだり跳ねたりの毎日が、今の私の土台をつくっています。

長年の厳しい演劇生活で得た強靭な体力と柔軟な心を大切にしながら、これからも自分らしく歩んでいきたいと思います。



▲岩手公演で(前列中央が私)

土田きよみ って どんな人?

おいたち編

ぼくもわたしも戦争はきらいです 《幼少期》



▲県民文化センターで
(2歳半)

しつもん編

Q. 好きなことは?

歌を歌うこと、映画を観ること、本屋さんに行くこと。

Q. 嫌いなことは?

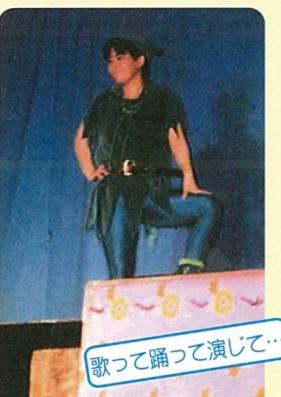
嫌いというより、許せないことが、戦争、冤罪、差別。

Q. 座右の銘は?

至誠一貫(高校の校是でした)
～いつも自分なりの誠実さを持っていたい～

Q. 演劇活動はどんな感じだった?

学校公演は、ワゴンカーと4tトラックに道具を積んで全国を巡りました。役者といえども、荷下ろしから、大道具の組み立て、照明・音響のセッティングまで…何でもやる力仕事。舞台に立てばピーター・パン役は必ずぱりの人気者、歌って踊って走って飛んで…と、とにかく体力勝負でした。子供達の喜ぶ顔や歓声が活力源でした。



▲24歳から16年主役をはった
ピーター・パン役

Q. そのころの生活は?

演劇だけでは食べていけないので、色々なアルバイトをして生活していました。稽古や公演の時は働けないので、その度にバイト先を変えるという感じです。年々、バイト先をみつけるのが大変になり、ブラックな働き方もありました。私の場合は、自分の夢のためにしかたがないと思っていましたが、今の社会では、非正規雇用や若者の使い捨てなど不当な働き方が横行しています。誰もが安心して働く社会に変えていかなくてはならないと思います。

Q.冤罪・布川事件とのかかわりは?

桜井昌司さんとの出会いから布川事件のお芝居をつくりました。数多い冤罪事件には、子供の頃から、その理不尽さ、司法の不誠実さに怒りを持っており、中学3年の時には、財田川事件の再審開始決定についての思いを、少年の主張の茨城県大会で発表しました。知れば知るほどおかしなことばかり。憲法がきちんと生かされていれば、当たり前の正義が通る世の中になるはずです。

Q.なぜ政治の道に?

今、憲法を壊そうとする動きが強まっていることに、激しい怒りと危機感を覚え、自分もなにか出来ることをしなければ!という思いで日本共産党に入りました。

過去の戦争から学んだ教訓を、平和で自由な未来のために、屈せずにつないでいきたい。

特定の誰かの利益のためじゃなく、誰もが人間らしく暮らせる平和で文化的な社会を、皆でつくりたい。そのためには力を尽くしたいと思います。